



コミュニティ・スクール
三鷹の森学園CS委員会だより

あすのつばさ 50号

令和8年3月
学園長：並木 茂男
会長：今里 讓
発行：三鷹の森学園
コミュニティ・スクール委員会

コミュニティ・スクールとは、「地域とともにある学校」を実現するための仕組みです。三鷹市では学園ごとにCS(コミュニティ・スクール)委員会が設置されており、保護者や地域住民がCS委員として、よりよい学校づくりのために知恵を出し合っています。

三鷹の森学園HP▶



令和7年度 三鷹の森学園 魅力ある学園・学校づくり保護者アンケート

保護者の皆さまの声から見てきたこと — アンケート結果のご報告 —

01 はじめに

保護者の皆さまへ

日頃より三鷹の森学園の教育活動にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この報告書は、保護者の皆さまにご回答いただいた「魅力ある学園・学校づくりアンケート」の結果をまとめたものです。今年度は、三校合計618世帯の皆さまから貴重なご意見をお寄せいただきました。

アンケートの結果は、「来年度、学園や各校がどこに力を入れるべきか」を考える上での大切な指針となります。皆さまの声が、子どもたちの教育環境をより良くしていくための出発点です。

本報告書では、データだけでなく、「その数字が何を意味しているのか」「次にどうしていくのか」を、できるだけわかりやすくお伝えすることを心がけました。ぜひ最後までお読みいただければ幸いです。

本報告書での略称：第五小学校→「五小」、高山小学校→「高山小」、第三中学校→「三中」と表記します。

02 「CS委員会」って何をしているの？

コミュニティ・スクール委員会の役割をご紹介します

CS委員会（コミュニティ・スクール委員会）

は、保護者・地域の方・学校の先生が一緒になって「学園をもっと良くしよう！」と話し合い、行動する仕組みです。

具体的には・・・

- ・学園の教育方針について、保護者・地域の視点から意見を伝えます
- ・アンケートの実施・分析等を通じて、保護者の皆さまの声を学園運営に届けます
- ・学園サポーター活動や地域連携の橋渡しを担います
- ・三校（五小・高山小・三中）が「ひとつの学園」として連携できるよう支援します

今回の報告書は、CS委員会の「評価部」が作成しました。

皆さまのお声を丁寧に読み解き、学校とともに改善に活かしていきます。



03 アンケートの回答状況

今年度は三校合計で618世帯から回答をいただきました。各校の回答状況は以下の通りです。

学校名	回答数	回答率	昨年比
第五小学校	201名	42.1%	↓
高山小学校	266名	33.9%	↓
第三中学校	151名	26.8%	↓
合計	618名	34.3%	—

回答率は昨年度と比べやや低下しています。

来年度は、より多くの保護者の皆さまにご参加いただけるよう、回答方法の工夫を進めてまいります。

04 アンケート結果の全体像（各校別「効果を感じる」と答えた保護者の割合）

まず、6つの教育領域について、「効果を感じる」（「とても感じる」+「やや感じる」）と回答された保護者の割合を一覧でご覧ください。

教育領域	五小	高山小	三中
① 確かな学力向上	63.7%	45.7%	56.7%
② 豊かな人間性	73.6%	67.3%	62.3%
③ 健康・体力	61.2%	42.9%	49.0%
④ 特色ある教育活動	85.1%	70.7%	72.2%
⑤ 小中一貫教育	71.2%	54.9%	75.5%
⑥ 教職員の働き方改革	72.7%	57.2%	53.0%

色の見方：70%以上 = 高評価 50~69% = 中程度 50%未満 = 改善が必要

この表から見えること

学園の強み：「特色ある教育活動」と「豊かな人間性」は三校共通で高い評価をいただいています。農業体験、防災教育、スマイル班活動、運動会・合唱などが子どもたちの成長に結びついていると、多くの保護者が実感されています。

さらに力を入れたい領域：「確かな学力向上」と「健康・体力」は、三校全体として効果の実感がやや低い傾向にあります。各校で様々な取り組みが行われていますが、保護者から「効果が見えにくい」という声もあり、取り組みの成果をよりわかりやすく伝える工夫が求められています。

各校の好事例から：ICT活用・授業改善・放課後学習を有機的に結びつけた取り組みが、保護者の高い評価に繋がっている事例があります。こうした好事例を学園全体で共有し、各校の改善に活かしていきたいと考えています。

05 各取り組み項目の詳しい結果

それぞれの領域について、保護者が「知っていること」と「効果を感じていること」をまとめました。

① 確かな学力向上

よく知られている取り組み

タブレット端末の活用（五小 95%・高山小 84%）、家庭学習支援のミライシード（高山小 90%）、放課後学習の場（五小・高山小とも 5 割以上）

もっと知ってほしい取り組み

授業研究会（先生同士が授業を見合い改善する取り組み）、三中での授業評価アンケート（22%）やICT活用による授業改善（30%）

保護者の声から

「効果を感じる」割合は学校間で45～64%と差があり、保護者からは授業や宿題に関する具体的な声も寄せられています。今後は学力向上への取り組みを「見える化」することが学園全体の課題です。

② 豊かな人間性

よく知られている取り組み

スマイル班活動（五小 95%）、あいさつ運動（高山小 83%）、道徳の授業（高山小 82%）、運動会・合唱コンクール（三中 99%）、プレ中学生体験・部活動見学（三中 91%）

もっと知ってほしい取り組み

スクールカウンセラーによる全員面談（高山小 18%・五小 12%）、ふれあい月間（高山小 14%）、いじめ防止アンケートの実施（三中 44%）、不登校支援の「さんる～む」（三中 54%）

保護者の声から

三校とも6～7割が肯定的で、学園全体の強みとなっている教育領域です。特に五小は74%と最も高い評価です。一方、いじめ防止やクラス内の人間関係について「もっときめ細かく」という声もあり、相談体制の周知が重要なテーマです。

③ 健康・体力

よく知られている取り組み

縄跳び月間（高山小 80%）、朝の校庭開放（高山小 68%）、体育専科教員の授業（五小 75%）、セーフティ教室（三中 77%）、薬物乱用防止教室（三中 66%）

もっと知ってほしい取り組み

体力テスト結果を活かした授業の工夫（高山小 20%・五小 43%）、中学校体育教員との連携授業（五小 4%・高山小 8%）、三中トレーニング・味休み体力づくり（三中 30～34%）

保護者の声から

三校全体として効果の実感が最も低い領域です（43～61%）。「どちらとも言えない」と回答した保護者も多く、体力向上の取り組み自体の認知度が低いことが一因と考えられます。

05 各取り組み項目の詳しい結果

④ 特色ある教育活動

三校共通で最も評価が高い領域です

五小は約85%、高山小・三中也約71～72%が「効果を感じる」と回答しています。

各校の特徴的な取り組み：

五小… 農業体験（91%）、防災教育（87%）、学校だより・HP（87%）が約9割前後の認知度

高山小… ALT英語（82%）、農業体験（68%）、学校だより・HP（77%）、吹奏楽（64%）

三中… 職場体験（93%）、職業人の話（88%）、進路説明会（80%）とキャリア教育が充実

一方で・・・

三中の「3年間を見通した段階的なキャリア教育」の認知度は25%と低く、個々のイベントは知られていても全体像が伝わっていない面があります。

⑤ 小中一貫教育

全校をとおして

小中一貫教育は、三鷹の森学園の基盤となる仕組みです。注目すべきは、三中の保護者の75%が「効果を感じる」と回答しており、三校で最も高い点です。小学校から中学校への接続を実感している保護者が多いことがわかります。

認知度が高い活動

中学生ボランティア（五小 96%）、プレ中学生体験（三中 89%）、小学校運動会ボランティア（三中 95%）

認知度が低い活動

小中の先生が合同で行う授業研究（高山小 20%・五小 26%）。先生同士の連携は日常的に行われていますが、保護者には見えにくい部分です。

⑥ 教職員の働き方改革

全校をとおして

昨年度は「低」評価だったこの領域が、全体として「中～高」まで改善しています。五小で73%、高山小57%、三中53%が肯定的に捕えており、改革の方向性が保護者にも支持されつつあります。

認知度が高い取り組み

学校閉庁日の設定（70～78%）、夜間電話の自動応答（64～73%）、タブレット等による業務効率化（73～76%）

認知度が低い取り組み

出退勤システムの導入（7～8%）、教員の休憩時間確保（12～17%）など、内部の労務管理に関する取り組みは1割前後の認知にとどまっています。

※ 働き方改革と教育の質の両立については、自由記述でも多くの声が寄せられています（→9章参照）。

06 学校からの情報と、保護者との連携

皆さまはどこから情報を得ていますか？

三校とも、主な情報源は「学校だより」（89～97%）、「校支援メール」（83～93%）、「お子様からの話」（72～81%）、「保護者会・学校公開」（69～78%）でした。

一方で、学校ホームページを情報源としている割合は30～45%にとどまり、CS委員会からのお知らせと18～27%と、まだ十分に届いていない状況です。

学校との連携を感じますか？

「連携を感じる」と回答した割合は、学校によって52～76%と差がありました。連携の実感が高い学校の取り組みを学園全体で共有していくことが重要です。

連携の実感を高めるには、学校からの情報発信だけでなく、保護者が「参加できる・声を届けられる」機会をさらに増やしていくことが大切です。このアンケートもその一つですが、来年度はCS委員会としてもより積極的な情報発信を検討してまいります。

07 保護者が今後期待すること

来年度、特に力を入れてほしい領域を伺ったところ、三校共通で以下の傾向が見られました。

	期待する領域	五小	高山小	三中
1	豊かな人間性	90.0%	86.1%	87.4%
2	確かな学力向上	67.2%	67.3%	70.9%
3	健康・体力	67.2%	70.7%	60.9%

保護者の皆さまの最大の関心は「子どもの人間性を育むこと」にあり、次いで「学力」や「体力」が続きます。これは校種（小・中学校）を問わず共通しており、学園として取り組むべき方向性が示唆されます。

「小中一貫教育」や「教職員の働き方改革」は単体の期待項目としては10～30%程度ですが、これらは上記の3領域を下支えする重要な基盤です。



08 学園全体の満足度

満足度を10点満点で伺ったところ、三校いずれも7点以上に回答が集中しており、半数以上の保護者が高い満足度を示しています。特に8～10点の割合は54～76%と、各校の取り組みが保護者に評価されていることがわかります。一方で、さらに満足度を高めていく余地もあります。

一部に5点以下の回答もあり、授業・学力面や人間関係に関する不安が満足度に影響している可能性があります。こうした声にも丁寧に向き合っていくことが大切です。

09 自由記述に寄せられた声（215件）

皆さまの率直なご意見（自由記述）を、テーマ別にまとめました。

感謝・評価の声

先生方の日々のご尽力への感謝、行事・委員会・部活動を通じた子どもの成長への喜び、農業体験や防災学習など地域と連携した特色ある教育への高い評価、カワセミ教室・さんる～む・スクールカウンセラーなど多様な支援への安心感が多く寄せられました。

改善を求める声・ご心配の声

学力・授業・宿題：授業の進め方や学習環境、宿題の量・内容、家庭学習のあり方について。

行事・部活動：行事や校外学習の縮小への残念さ、部活動と勉強のバランスについて。

人間関係・いじめ：クラス内の雰囲気やトラブル、いじめ防止の徹底を求める声。

ICTと学び：タブレット活用は評価しつつ、「書く力の低下」「荷物の多さ」「家庭での使い方」への不安。

働き方改革と教育の質：先生の負担軽減には理解を示しつつも、宿題・行事・部活動の縮小が子どもの経験や学びの機会を狭めないかという心配の声が複数寄せられました。「削るだけでなく、何を残し何を变えるのかを伝えてほしい」という建設的なご意見もありました。



保護者の皆さまへ

今回のアンケートを通じて、保護者の皆さまが学校への信頼と感謝を持ちながらも、「もっと良くしたい」「不安を共有したい」という率直な思いをお持ちであることが、改めてよくわかりました。

この報告書は、皆さまの声を学園・各校の教育改善に確実に繋げていくためのものです。CS委員会は、来年度もこのアンケートの結果を各校の学校運営、学園全体の運営に反映させていくよう働きかけてまいります。

「学園と保護者の対話」を深めること。それが、子どもたちにとって最も良い教育環境をつくる鍵だと、私たちは考えています。引き続き、皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。

三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会 評価部



11 お問い合わせはこちらまで

■ 学園ホームページ

CS委員会の活動報告、「CSだより」のバックナンバー、学園ブログなどをご覧ください。

<https://mitakanomori.ms.mitaka.ed.jp/>

■ お問い合わせ

CS委員会へのご意見・ご質問は、学園ホームページの「ご意見・お問合せ」ページからお寄せください。



© 2026 三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会